

令和元年10月28日(月)

いわきは心をつに その3

令和元年の10月は、とても大変な月となりました。10.12の台風19号の大きな災害における生徒たちの苦労は並大抵のものではありませんでした。

特に、小川、赤井、平窪、谷川瀬地域など、深夜の増水及び浸水と、その対応の恐怖は、想像を絶することだと考えます。今になって、その日の大変な状況の個別の姿が、情報として流通し始め、トイレのごぼごぼという音から、あつという間に床上浸水していった有様や、屋根の上で低体温症になりながら助けられた方々の話、お亡くなりになった方の人を呼ぶ笛の音が鳴りやんだ時の話、家の中すべてを捨てなければならなかった方の話、着の身着のままこれからのことを考えることができずにいる方の話など、胸が張り裂けるようです。

この土日も、新たな台風21号の余波の中で、親戚総出で片付けに追われたその苦労が水の泡になったり、被災した家族の方々の新しい仮住まいへの引っ越しや、地域ごみの搬出と運び出し等、それぞれがへとへとになりながらその中で、3年生は、自己の進路を切り開くため、模擬試験を受ける必要があります、26日は、JRストップのため、27日の朝早くから集まり試験に向かい頑張っている姿を、ラグビーの安積戦の後、学校に来て見るにつけ、心から支え泣ければと思うのでありました。

さて、第二グラウンドの悲惨な状況は、臨時の第57号でお知らせしたとおりですが、その後に、いろいろな業者が災害ごみを持ち込んだりして、うずたかく山のようになった(本当に山のようにでした。)ゴミが、自衛隊の方々の懸命な作業により、ほとんどそのごみが無くなるという魔法のようなことが起こりました。悪臭も厭わず、何十人という自衛隊の方々の手作業と、重機を使ったごみ搬出と、家庭ごみや電化製品等のより分けなど、献身的な作業には頭が下がりました。

わが校の教員も一緒に片づけをしていると、飯盒炊き出しの提供まで受け、とてもとてもありがとうございました。

いわき市役所の今回の災害対策に尽力なさってくれた、ゴミ減量推進課の皆様方、併せて大変お世話になりました。

今後、文部科学省の予算によるグラウンド再開のためのヘドロ回収及び土壌改良の作業と、磐越東線沿い線路周囲のごみ撤去並びに、部室再開へ向けた取り組みを継続し、もう一度、磐城高校第二グラウンド再開に向け、全力を尽くしてまいります。

本当に、ありがとうございました。

生徒たちもボランティア活動に、自分から、部活動ごとや生徒会の有志として、積極的に参加しております。単なる美談ではない、この故郷を何とかしなければならぬ心に突き動かされて、泥まみれになって参加しています。

いわきは心をつにして、いわきが心ひとつになって、この災害を乗り越えていければと心から願います。